

第9回日本トルクメニスタン経済合同会議議定書

日本とトルクメニスタンのあいだの経済関係のさらなる強化・発展を目的として、2010年11月29日にアシガバードにおいて、トルクメニスタン日本経済委員会と日本トルクメニスタン経済委員会の第9回日本トルクメニスタン経済合同会議（以下、合同会議）が開催された。

会議にはトルクメニスタン日本経済委員会および日本トルクメニスタン経済委員会（以下、双方）のメンバーならびにトルクメニスタンおよび日本の政府、省庁、ビジネス界の代表が参加した。日本トルクメニスタン経済合同会議参加者の名簿は別に添付する（添付文書1、2）。

合同会議ではトルクメニスタン側からB・ホジャムハメドフ・トルクメニスタン日本経済委員会会長、トルクメニスタン副首相、日本側から藤田純孝・日本トルクメニスタン経済委員会会長、伊藤忠商事株式会社相談役を議長にして行われた。

協議および意見交換の結果、双方は以下のことに合意した。

1. 会合は友好的な雰囲気で行われた。双方は、トルクメニスタンと日本との間の貿易・経済関係に関する諸問題について報告、意見交換を行った。また、両国の貿易・経済関係の深化と拡大に寄与している両経済委員会の活動意義を高く評価し、経済・貿易分野の発展を早める重要な要因となっている相互関係の現状に満足の意を表明した。

日本とトルクメニスタンの貿易関係に関して、2009年の貿易高は2,980万ドルであった。

今日の貿易高は既存の潜在力に適っていないことに鑑み、両国間の貿易拡大の目的で量経済委員会は、対外経済関係を担当する両国の省庁・官庁の専門家たちの会合を今後も継続することが必要であることを強調した。今回の専門家の会合の中では、両国の輸出入の強化、供給される製品の品目の拡大、協力活動の新しい形式の模索などに関する提案について議論され、会合の結果に基づき準備が進められる。

両国の貿易・経済関係発展のために、双方はトルクメニスタンの商工会議所と日本のビジネス・産業界を含む諸機関の協力関係の活発化、ビジネスフォーラム、セミナー、展示会、商案に関する情報交換のような協力活動の実施の必要性に合意した。前回の会合で共同フォーラム、展示会、見本市の開催に合意したにもかかわらず、双方は積極的な活動を行っていなかったが、一方、日本企業はフォーラム、会議、展示会に積極的に参加した。従って、関係省庁は来年、日本とトルクメニスタンの共同事業の実施に努める。

さらに、両国の貿易・経済協力強化のために、双方は以下に関する日本とトルクメニスタン二国間のプロジェクト作成および合意が妥当だと考える。

貿易・経済協力について

投資について

文化・人道分野について

2. 双方は、平等と互恵を原則として長期的かつ安定的な相互協力の重要性を考慮に入れて、トルクメニスタン経済への日本の効果的な投資と最新技術導入に関わる日本の活動を継続するとともに、以下の経済分野での投資案件の実現において日本側の役割を拡大させることに合意した。

● 石油・ガス、化学工業、エネルギー分野

—石油ガス、炭化水素資源の高度加工、石油化学工業、化学工業の発展

—トルクメニスタンの固体鉱物資源の開発

—国営コンツェルン「トルクメンヒミヤ」および「トルクメンガス」諸案件の実施の継続

● 運輸・通信分野

—通信・輸送網の整備・発展

● 銀行分野

—トルクメニスタンにおける将来性の高いプロジェクト実現に対する日本側金融機関の融資の利用

● 織維産業分野

—軽工業への最新技術導入の分野で情報交換

3. 双方は以下の問題解決に関する両国のしかるべき省庁・官庁の専門家の追加的な会合の実施を目指す両国の意向を表明した。

● 日本の一級クラスの銀行の支店開設問題の検討

● トルクメニスタンにおける将来性の高いプロジェクトの実現の際の日本の金融機関のクレジットの利用

● トルクメニスタン水利省はコマツと共同ですでに購入された工作機械の部品生産に必要な機器の供給に関する問題を検討する

● トルクメニスタン鉄道交通省は伊藤忠と共同での日本で生産され、すでに納入された設備に対する必要な機械の提供に関する交渉を実施する

● トルクメニスタン織維工業省、国家コーポレーション「トルクメンハルイ」、トルクメニスタン商工会議所、トルクメニスタン産業家・企業家同盟はじゅうたん製品及び織維製品の日本への輸出強化に関する事業を実施する

● トルクメニスタン産業家・企業家同盟は日本企業と共に、さまざまな電気・電子設備の組み立てに関わる合弁企業のトルクメニスタンでの設立の可能性を検討する

4. 合同会議の活動結果を総括しつつ、双方は以下に合意した

● 三菱商事と三菱重工業とのTedjen 尿素工場第二期工事の建設に関する協議の継続

● 天然ガスの効率的加工に関する国営コンツェルン「トルクメンガス」と日揮および伊藤忠との間の協議の継続

● 日本側が参加し、トルクメニスタンで実施されるプロジェクトの実施過程における時宜を得たチェックを可能とするために、それらの進捗状況に関する定期的な情報交換および経済分析における相互協議の実施の継続

● 貿易関係の促進、経済・法分野における法令に関する情報の相互交換促進の継続

- トルクメニスタンの専門家と指導的関係者を対象にした各種講習会やセミナーなど技術支援の継続的な実施
- 日本の高等教育機関で学ぶトルクメニスタンの学生の数の増加
- トルクメニスタンとの経済協力拡大のための日本側金融・銀行業界の支援
- 両国内における貿易経済展示会、フォーラム、見本市への参加または開催の支援

5. 双方は、合同会議において以下のプロジェクトの実施に向けて必要な支援を行う用意があることを表明した。

- 1) 双日とトルクメンヒミヤとの間の苛性ソーダ製造設備納入プロジェクト
- 2) 双日と建設資材省との間のセメントプラント・プロジェクト
- 3) 双日と建設資材省との間のロックウール製造プロジェクト

6. 双方は、第 10 回合同会議を双方に都合の良い時期に東京で開催することに合意した。開催日時はかかるべきチャンネルを通じてさらに調整される。

7. 合同会議は友好的な雰囲気の中で行われ、両国の発展のために互いの利益を考慮した互恵協力を継続しようとのトルクメニスタンと日本、双方の志向をはつきりと示した。

2010 年 11 月 29 日にアシガバードで、ひとしく正文であるトルクメン語、日本語ならびにロシア語で本書 2 通を作成した。各テキストは同等の効力を有する。

ホジャムハメドフ B.

藤田純孝

トルクメニスタン日本経済委員会会長
トルクメニスタン副首相

日本トルクメニスタン経済委員会会長
伊藤忠商事専相談役